

観 点 ・ 小 問 ご と の 分 析	対 策 の 視 点
<p>が、統計資料を利用すると答えたのは78%である。</p> <p>救急車や郵便局を見学するとした誤答例が多い。</p>	<p>ある。</p> <ul style="list-style-type: none"> 調査学習の場合、何をどのような方法で調べれば解決できるのか、考える習慣を身につけさせる。
<p>5. 土地利用のくふうについての思考</p> <p>水がないところに用水路を引くとした正答率は69%で、排水路をつくと答えた誤答が目だつ。</p> <p>寒い地方の米づくりについての正答率は68%である。</p> <p>水はけの悪い水田の排水路と混同した誤答が目だつ。</p>	<ul style="list-style-type: none"> いろいろな土地条件に住む人々は、自然環境をうまく利用すると同時に、不利な自然条件を克服して生産を向上させるために、品種の改良・土地の改良・施設の整備などいろいろと工夫していることを考えさせる。
<p>観点③（社会的思考・判断）について</p> <p>観点③の平均正答率は66%で、小問によっては38～86%の差が見られる。</p> <p>毎時の授業の中で、問題を投げかけ、「なぜ、そうなのだろうか。」と疑問を持たせ、これを追求していく学習が必要である。</p> <p>思考させる場合、今まで学習し、知識として得たものを駆使して、課題を解決していく学習訓練が必要である。</p> <p>発問の工夫として、場面によっては否定的な発問をし、児童に考えさせる機会を与える方法も考えられる。</p>	

◎ 第4学年社会についてのまとめ

- 三つの観点について、それぞれの正答率をみると、「知識・理解」については61%、「資料活用能力」については64%、「社会的思考・判断」については66%の正答率を示しており、「社会的思考・判断」が特に高くなっている。全体の正答率は63%である。
- 知識・理解については、日ごろの学習展開の過程で、見学や観察、もしくは、資料の読み取りを通して、社会的な知識を確実なものにしたい。
 - さらに、多くは、地域社会にかかわりのある地名・人名・施設名などの固有名詞や用語を、くり返し用いるなどして確実に身につけさせたい。
- 資料活用能力については、地形図・土地利用図・分布図・気候グラフ・統計グラフなどの凡例や表現の形式に慣れさせるなど、着実な読み取りを指導したい。
 - また、具体的なイメージ把握のためには視聴覚教材の活用も大切である。